

NTN株式会社 桑名製作所

陸上競技部 ニュース

平成24年 2月20日 第223号

2012名岐駅伝特集

1区梅枝選手の好走を生かせず5位でゴール 課題の残った名岐駅伝

第66回名岐駅伝が2月5日(日)6区間52.6kmを大垣、名古屋間のコースにて開催された。

NTN陸上競技部は今シーズン最後の駅伝で優勝を目指し大会に臨んだが目標を大きく下回る5位でゴール。序盤、梅枝選手が期待通りの走りで区間賞と2秒差の3位でタスキを繋ぐが2区以降は徐々に順位を落としてしまう。ニューイヤー駅伝2区で区間賞を獲得した4区E・ワウエル選手も腹痛から本来の走りが出来ず苦しい展開。後半区間でも逆転は出来ずシーズン最後の駅伝で課題が多く見えた駅伝となった。

(成績)

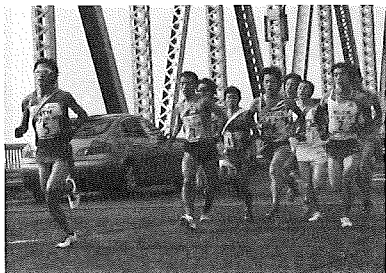
順位	チーム名	記録
1位	トヨタ自動車	2時間30分45秒
2位	トヨタ紡織	2時間31分58秒
3位	スズキ浜松AC	2時間32分34秒
4位	愛知製鋼	2時間33分55秒
5位	N T N	2時間34分45秒
6位	トーエネック	2時間35分15秒
7位	八千代工業	2時間35分20秒
8位	愛三工業	2時間36分10秒

区間	距離	選手名	記録	通過順位	区間順位
1区	12.4Km	梅枝 裕吉	36分01秒	3位	3位
2区	7.3Km	大西 毅彦	21分36秒	5位	5位
3区	6.0Km	佐藤 匠	17分44秒	6位	6位
4区	9.8Km	エドワード・ワウエル	27分44秒	5位	4位
5区	5.3Km	山下 直紀	16分08秒	5位	11位
6区	11.8Km	山下 洸	35分32秒	5位	5位

1区(12.4Km)大垣城ホール前～岐阜県庁前

レースの流れを作った梅枝選手

1区は今チームで最も安定感のある走りをするキャプテンの梅枝選手。2年前には区間賞を獲得するなどこのコースを熟知している選手だ。例年に比べると寒さの緩む気候



集団の先頭を走る梅枝選手



選手を待つ応援団

の中スタートの号砲と共に飛び出した。全体的にスローペースでレースが進むと9kmを過ぎて中尾選手(スズキ浜松AC)がペースを上げる。そこから集団は縦長となるが梅枝選手は食らい着く。20mほどまで中尾選手に差を広げられた梅枝選手であったが中継所手前では差を詰め、先頭から遅れること2秒差の3位でタスキリレー。1区の役割を果たす力走を見せレースの流れを作り出した。

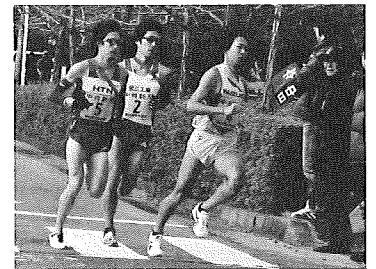
(通過順位とトップとの差)

1位	スズキ浜松AC	—	5位	トヨタ紡織	9秒
2位	愛三工業	2秒	6位	八千代工業	17秒
3位	N T N	2秒	7位	トーエネック	18秒
4位	トヨタ自動車	9秒	8位	愛知製鋼	22秒

2区(7.3Km)岐阜県庁前～中日新聞岐阜支社前

粘りきれなかった 大西選手

先頭から2秒差の好位置でタスキを受けた大西選手はスズキ、愛三工業、トヨタ自動車の4チームで先頭争いを繰り広げた。暫くは集団でレースは進んだが中間点を過ぎると松本選手(トヨタ自動車)がペースを上げると集団はばらけてしまう。粘る大西選手であったがラスト2kmで塩田選手(トヨタ紡織)、ニコラス選手(八千代工業)にかわされ先頭から30秒遅れの5位で中継した。



中継所を飛び出す大西選手

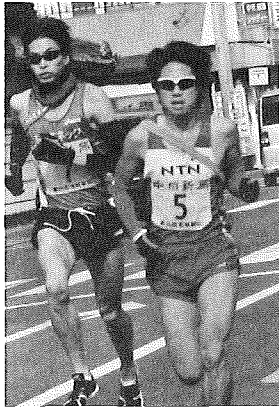
(通過順位とトップとの差)

1位	八千代工業	—	5位	N T N	30秒
2位	トヨタ自動車	1秒	6位	愛三工業	43秒
3位	トヨタ紡織	7秒	7位	トーエネック	46秒
4位	スズキ浜松AC	10秒	8位	愛知製鋼	59秒

3区(6Km)中日新聞岐阜支社前～笠松大洋電機前

佐藤選手 苦しい走りで順位を落とす

マラソン練習に取り組む佐藤選手であったが、予定した選手の体調不良で急遽出走となった。4区にはワウエル選手が控える為、この区間で少しでも差を詰めたところ。スタートして4位のスズキを追いかける佐藤選手でしたが思うように差は詰まらない。残り2kmでは中継時と同じ20秒差で我慢の走りをする佐藤選手であったが、徐々に走りが重たくなる。懸命に走る佐藤選手であったが後方から快調なペースで追いついてきた中村選手(トーエネック)にかわされ6位に順位を下げ4区のワウエル選手にタスキを繋いだ。(通過順位とトップとの差)



懸命に前を追う佐藤選手

1位	トヨタ自動車	—	5位	トーエネック	1分8秒
2位	トヨタ紡織	35秒	6位	N T N	1分15秒
3位	八千代工業	36秒	7位	愛三工業	1分48秒
4位	スズキ浜松AC	47秒	8位	愛知製鋼	1分57秒

4区(9.8Km)笠松大洋電機前～中日新聞一宮総局前

ワウエル選手 腹痛により快走ならず

4区にはニューイヤー駅伝で区間賞を獲得したワウエル選手が出走。全走行距離の短い名岐駅伝でこれ以上の遅れは許されない。この区間で巻き返しをはかりたかったが、目論見が外れる結果となってしまった。序盤はペースを抑え、後半にペースアップする作戦で走り出したワウエル選手であったが腹痛が起り苦しい走りとなってしまふ。八千代工業、トーエネックを抜いて一時は4位に順位を上げるが、ラスト1kmでダウン選手に抜かれてしまふ。最後までペースは上がらず4位愛知製鋼と12秒差でタスキを繋いだ。

(通過順位とトップとの差)

1位	トヨタ自動車	—	5位	N T N	1分31秒
2位	スズキ浜松AC	18秒	6位	八千代工業	2分16秒
3位	トヨタ紡織	42秒	7位	トーエネック	2分22秒
4位	愛知製鋼	1分19秒	8位	愛三工業	2分46秒

5区(5.3 Km)中日新聞一宮総局前～下津ENEOS前

ペースが上がらなかった山下選手

一度途切れた流れは後半区間でも立て直す事は出来なかった。最短の5区には今年で10年目となりベテランの域に達する山下選手。過去にこの名岐駅伝で快走をした事もあったが、今年は苦しい走りとなってしまった。優勝争いは厳しくなったが一つでも順位を上げようと前半から積極的に前を追う山下選手。一時的には差を詰めたが、そこからペースが上がらない。後半は更にペースが落ちていき5km15分を要してしまう。最後までペースは上がらず4位愛知製鋼と42秒差、6位トーエネックに6秒差まで詰め寄れる走りとなってしまった。

(通過順位とトップとの差)

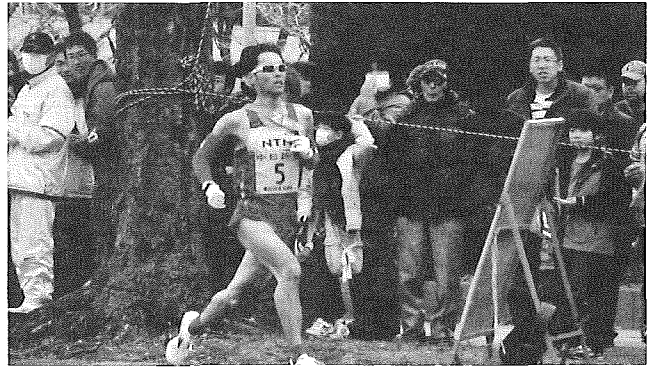
1位	トヨタ自動車	—	5位	N T N	2分16秒
2位	スズキ浜松AC	3秒	6位	トーエネック	2分22秒
3位	トヨタ紡織	36秒	7位	八千代工業	2分48秒
4位	愛知製鋼	1分34秒	8位	愛三工業	2分51秒

6区(11.8Km)下津ENEOS前～中日新聞本社前

懸命に前を追った山下選手

アンカーはニューイヤー駅伝でも好走し、今年一番の成長株の山下選手。序盤からハイペースで4位の大塚選手(愛知製鋼)を追った。一時は20秒差まで差を詰めるが明らかなオーバーペース。前半を抑えて走った大塚選手は中間点を過ぎると徐々にペースを上げ山下選手との差を広げる。懸命に前を追う山下選手であったがこれ以上ペースは上がらない。最後は逆に差を広げられて5位でゴールとなった。

昨年と同じ5位とは言え、昨年は若手を積極的に起用し5区まで先頭争いを繰り広げ、期待を持たせた5位であった。しかし今年は2区以降、見せ場も無いままゴールを迎え、ニューイヤー駅伝で8位入賞を目指すチームには物足らなく、そして不甲斐ない結果となった。



5位でゴールに向かう山下選手

今年の3月には陸上部員専用の寮も竣工され更に競技に集中できる環境が整えられる。陸上部は会社が陸上競技に集中できる環境を整える事を当たり前と思わず、環境を整えてもらった分、試合で結果を出して従業員に応援されるよう頑張らなくてはならない。今大会の結果は余りにも残念でならない。後援会の立場からあえて厳しい事を言わせてもらったが、今回の結果をスタッフ、選手は真摯に受け止めて今後の強化に努めてもらいたい。



応援に来ていただいた応援団との記念撮影

応援ありがとうございました